

ロタウイルスワクチン

令和2年10月1日からロタウイルスワクチンが定期接種となりました。

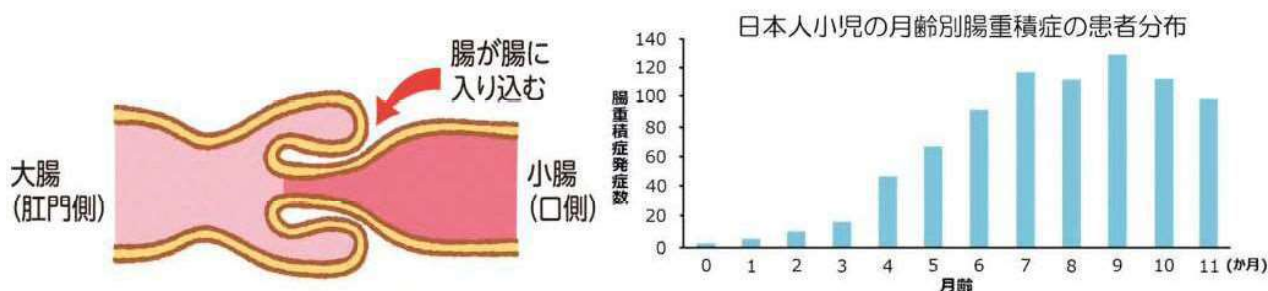
令和2年8月1日以降に生まれた方が対象です。

ロタウイルス胃腸炎は、感染力が非常に強く、激しい下痢や嘔吐を起こします。入院や、合併症を起こすこともあります。生後、すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は、早い時期に完了させる必要があります。ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも飲むタイプの生ワクチンです。医療機関で相談し、どちらかのワクチンを選んでください。2種類とも、効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なります。特別な事情がない限り、途中で種類の変更はできませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種してください。どちらのワクチンも、ロタウイルス胃腸炎の発症を7～8割減らし、入院するような重症化のほとんどを予防することができます。

ワクチン名	ロタリックス（1価）	ロタテック（5価）
接種時期	生後6週から生後24週	生後6週から生後32週
	※どちらのワクチンも、初回接種を、生後2カ月から生後14週6日までにします。	
接種回数	2回接種（27日以上の間隔をあける）	3回接種（27日以上の間隔をあける）
接種後、特に注意する事	どちらのワクチンも、接種後（特に1～2週間）は腸重積症（後述）の症状に注意し、症状が見られた際には、すみやかに接種した医療機関を受診してください。	

【腸重積症について】

腸重積症とは、腸管に腸管が入り込み、腸が閉塞状態になることです（下図）。ワクチン接種後1週間程度は、腸重積の発症が、わずかですが上がる可能性が知られています。0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こることがある病気なので、注意が必要です。もともと、4～5カ月齢ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなる病気（下のグラフ）ですので、早めにワクチンの接種を完了する必要があります。



腸重積症は、手術が必要になることもありますが、発症後すぐに治療すれば、ほとんどの場合は、手術をせずに治療できます。以下のような症状が見られた場合は、すみやかに医療機関を受診してください。

- 機嫌がよかったり不機嫌になったりを繰り返す
- 嘔吐を繰り返す
- 突然激しく吐く
- ぐったりして顔色が悪くなる
- 便に血が混じったり、血便がでる

接種後に上記の症状がみられて医療機関を受診する場合は、必ずこのワクチンを接種したことを医師などに伝えてください。